
幻想の果てに

かいわれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想の果てに

【Nコード】

N4205J

【作者名】

かいわれ

【あらすじ】

のんびりしつつも超高速。

生ぬるいけど刺激的な日常を幻想郷で送る青年のお話。

さて、今日もお仕事を頑張りますかね。

始まりはいつも突然【1】（前書き）

初投稿になります。

恥ずかしい駄文ですが楽しんで頂ければ幸いです。

本作品はオリジナルキャラが登場します。

また、原作の独自解釈もございます。

そう言った物に耐性が無い方、嫌悪感を感じる方は、ご遠慮ください。

始まりはいつも突然【1】

ちんたら歩くなよ

この辺りには悪魔がいるんだ

目の前に広がるは黄色い海。

初めて見たときは恐怖さえ感じた向日葵畑を眺める。それを言い表すとしたら、「大自然の神秘」と言ったところか。

無限に広がっている向日葵畑を見ていると、いかに自分がちっぽけな人間かが解る。

と、小高い丘の上から向日葵畑を見下ろし、持っていた煙管を口にくわえ、ちっぽけな人間こと、蜜色齋【みついろ なずな】はシニカルな笑みを浮かべた。

齋の口から一筋の紫煙が漏れる。風に乗ったソレは、薄く消えながら、ココから遠く離れた人里の方角に消えていく。

あの煙のように、俺も帰りたい

それが齋の偽りのない本音だった。

さあ、現実逃避はおしまいだ。と言わんばかりに、齋は煙管の中身を捨てる。環境破壊も何のそのだ。

大自然だって堪能した。あんなもの、10秒も眺めれば十分だ。

「なあ、お前もそう思うだろ？」

齊は相変わらずの笑みを浮かべたまま、自分の真横に鎮座するソレに話掛けた。

返事は無い。その代わりに耳障りな唸り声が返ってきた。

齊はヤレヤレと言わんばかりに肩をすくめ、手に持っていた煙管をソレに向けた。

「あの魔女っ娘からは美人だって聞いてたんだがな」

齊の表情からシニカルな笑みが消える

「流石に、ワンコには欲情出来ねえわ」

話は一刻ほどさかのぼる。

始まりはいつも突然【1】（後書き）

はい、プロローグに当たるお話でしたがいかがでしょうか？
感想などありましたらどんどんお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4205j/>

幻想の果てに

2010年10月13日19時48分発行